

事業	取組項目	取組概要	実績・取組状況	予算規模
防災学習ネットワークに関する情報発信	パンフレットの作成	市内の津波伝承施設・団体等を紹介するため、各施設・団体等と連携しながら、パンフレットを作成する。 パンフレットは、市外来訪者でも施設等の場所が分かるように地図上に位置を表示することとし、ネットワーク関連施設・団体等の概要を掲載する。	大船渡市防災学習ネットワークパンフレット作成業務により、以下のとおりパンフレットを作成した。 ・受注業者 川嶋印刷株式会社 ・納入期限 令和5年3月24日(金) ・仕様 A3サイズ・2つ折り＋巻3つ折り(DM折り)・コート紙90kg 10,000部	473,000円
	HP等による情報発信	市公式HP及びSNS(ツイッター、フェイスブック、ライン)等を活用し、防災学習ネットワークに関する情報発信を行う。	市公式HPに、運営協議会の協議資料や各津波伝承施設等の紹介資料のほか、3.11伝承ロードに新たに登録された大船渡市魚市場と大船渡市防災学習館の情報について掲載した。今後、市公式HPの充実を図りながら、SNSを活用した効果的な広報の仕方を模索し、情報発信力の強化につなげる。	—
防災学習ネットワーク関連施設等の利用促進	小・中学校での活用促進	教育委員会と連携を図りながら、施設概要や取組内容等の情報提供を始め、活用依頼文書やパンフレットの配布、出前授業のほか、展示パネルや動画等の素材の貸し出しなどを行い、ネットワークの利用促進を図る。	小学校からの依頼により、出前授業を行った。 ▶大船渡北小学校(11月28日実施) 対象は4年生。東日本大震災津波による被害状況や災害対応状況のほか、復旧・復興の様子、災害への備えなどについて説明を行った。 ▶赤崎小学校(12月9日実施) 対象は4年生。東日本大震災津波による被害の様子や災害時の情報発信の方法、自主防災組織の役割などについて説明を行ったほか、赤崎小学校の敷地内にある防災備蓄倉庫の見学を行った。	—
	モデルコースの作成	各施設・団体等と連携し、目的(東日本大震災の伝承・震災遺構・震災復興など)や所要時間(1・3・6時間等)、観光関連施設等を組み入れたものなど、ニーズに応じたコースの設定を行い、市ホームページ等に掲載する。	大船渡エリア半日コース、三陸地区エリア半日コース、市内1日コースを設定したものの、目的やターゲットの明確化が必要であることから、観光関係者等との意見交換を重ねることとした。今後、モデルプランを再考し、令和5年度において、モニターツアーや小・中学校への提案等の取組に反映させる。	—
震災の記憶や教訓等の記録・保存	大船渡市防災学習アーカイブスの充実	市内の津波伝承施設や震災遺構、復旧・復興に関する取組等のコンテンツを登録し、アーカイブスの内容の充実を図る。 大船渡市防災学習館、おおふなぽーとにデジタルサイネージを設置。(コンテンツ登録件数:21件)	新たなコンテンツ39件を登録。 引き続き、コンテンツの充実及びアーカイブスの周知を図る。	894,960円
	3.11伝承ロードへの登録	市内の津波伝承施設・震災遺構等について、3.11伝承ロードへの登録を行う。(現登録件数:22件)	大船渡市魚市場展示室(第3分類)と大船渡市防災学習館(第2分類)について登録申請を行い、令和5年1月31日開催の震災伝承ネットワーク協議会において追加登録された。※登録施設25件(別紙1参照) 復興庁発行「るるぶ特別編集 東日本大震災伝承施設ガイド」に、第3分類に登録されている市立博物館、大船渡市魚市場が掲載・紹介されている。	—
その他	ゲートウェイの役割	ゲートウェイにおけるコーディネート業務について、段階的な移行を図ることとしていることから、業務内容や必要経費等を整理するとともに、移行時期について、指定管理者と協議を行う。	コーディネート業務の移行について、おおふなぽーとの指定管理者である一般社団法人大船渡市観光物産協会と協議を行っているが、今後、業務内容などを示しながら、引き続き協議を行う。	—
	大船渡市防災学習館の運営方針	漁村センターの指定管理者と、館内ガイドの取り扱い等について取り決めを行う。	漁村センターの指定管理者である赤崎地区振興協議会と協議の結果、以下のとおり委託契約を締結し、各業務を開始した。(利用者数:102人) ▶管理運営業務 防災学習館の円滑な管理運営を図るための業務委託。 防災学習館の予約受付、清掃、照明器具や展示機器の管理、消耗品等の補充などを行う。 ▶館内ガイド業務 来館者に対して、震災の経験や教訓、自然災害の備えなどについて伝え、防災・減災に関する知識の普及と意識の啓発を図るための業務委託。来館者の案内、展示物等の説明を行う。	【管理運営業務】 160,000円 【館内ガイド業務】 4,500円
	津波伝承施設等の視察	東日本大震災の経験や教訓のほか、被害状況、復旧・復興の取組などについて知見を深めることを目的に、近隣市町の津波伝承施設等を視察し、防災・減災対策の参考とするとともに、各自の取組に生かしていく。	3月に、いのちをつなぐ未来館(釜石市)、大槌町文化交流センターおしゃっちの視察を予定していたが、日程等調整つかず、未実施。	—